生活について

母は11歳から子守奉公に出ました。食料品店をリヤカーで町中あきないしていました。また、家から岩美駅まで歩いて行き、汽車に乗って仕入れに行っていました。そのことで大変足腰が鍛えられたのではないかと思います。

和裁もよくやりました。着物の縫い方は誰にも教わらず、着物をほどいて縫い方を見て縫ったそうです。

とにかく、若い頃はよく働いていました。寝ころんでいる母の姿を見たことがありません。今でも時々テレビ体操をしたり、お手玉を縫ったりします。洗濯物をたたむのは母の役目です。

性格について

何でもよい方に考えるプラス思考です。大変おおらかであまりくよくよしません。人を怒ったのを見たことがありません。私が子どもの頃、意地悪をしてきた人のことを悪く言っても、「人のことを悪く言われんで。意地悪をされても腹を立てずあわれんでやれ。」と言い、よく戒められました。「もったいない。ありがたい。ばちがあたる。」が口癖で朝日や夕日を見ては手を合わせ、たわしでも何でもとことん使っていました。

それから、岩美駅から仕入れによく行っていた母は、汽車を待っている間、いつも駅の掃除をしていたようです。昭和51年９月の台風17号で汽車が立ち往生した時は、仕入れてきたものを乗客に配り、人々のお腹を満たしました。とにかく、自分のことより人のことを優先して行動することが多かったです。

山﨑千代子さん（浦富）
明治42年２月生まれ
～インタビューに答えてくださったのは長女 喜久枝さん～

食事について

薄味で魚と野菜中心です。肉も食べても鶏肉です。なるべく手作りの物を食べ、添加物の入ったものはあまり食べません。朝はパンと牛乳と果物。この『朝果物を食べる』のがキーワード！『果物は朝は金！夜は銅！』と母は子育てをしている頃そう言って、必ず朝私達子どもに、果物を食べさせていました。今では私がお母さんにしてもらったことを受け継ぎ、お母さんの食卓へ、必ず朝果物を出してます。

それから、母は豆腐屋さんだったので、若い頃よく豆乳を飲んでいました。今は毎日昼と夜に、豆腐を必ず食べます。

『腹八分目で湯たっぷり』を若い頃から心がけ、いつも控え目に食べ、水分は多くとり、間食はしません。

若い頃からよく働いた手です。触らせていただくと、とてもふわふわやわらかくて、人を包みこんでくれる山崎さんのお人柄そのものです。

お二人から学んだこと

取材を通してこのお二人に共通する点が多くあることが分かりました。とにかくよく働き、好奇心旺盛、性格も温厚で周りにいる人を幸せにできる方です。あらゆることに感謝して、物を大切にする心を持った方です。お二人の生活は100年という一世紀の間にいろいろなことがあり、目まぐるしく変化していったことでしょう。お二人のお話を聞かせていただいて、時代は変わっても決して忘れてはならないことがあることを教わり、大きな忘れ物が届けられたような気がします。

今月は敬老の日があります。おじいちゃん、おばあちゃんにプレゼントを差し上げる日となってますが、実はおじいちゃん、おばあちゃんの話に耳を傾けることによって、若い世代が心のプレゼントをいただく日とも言えるのかもしれません。

みなさんもぜひこのお二人の生き方を参考に、また近所のおじいちゃん、おばあちゃんの生き方を参考にして、いつまでもどの世代も幸せで元気な岩美を目指しましょう。